

講義名	特別講義(イノベーション・マネジメント)					授業形態	
担当教員	井上 芳郎	開講期・曜日・時限		前期 金曜日 3 時限			
		単位数	2	履修開始年次	1 年生	ナンバリング・コード	

主題と概要
経営学科だけではなく、全大学院のすべての院生も知っておくべき体系知 イノベーション（経営革新）の基礎知識がなくても、1から優しく導入・解題・解析して進める 「資本主義の本質はイノベーションである！」 「イノベーションの本質は創造的破壊である！」 「発明、イノベーション、普及・模倣」を一体どのように理解すればいいのかな？ 100年以上前にシュンペーター（1911）に提起された「新結合」を特徴としたイノベーションの概念は日本においては「技術革新」（内閣府（1956）『経済白書』）と認識されて久しい。つい最近、製品開発など生産やモノづくりの領域だけではなく、流通販売など消費やコトづくりのサービスの範疇までもに拡大しつつある。つまり、製品イノベーションだけではなく、サービス・イノベーションもこの分野の射程に収められ、研究教育の膨大な知識が蓄積されている。 他大学では、一橋大学（文科系）：日本のイノベーション研究教育の最高峰の代表大学として、かなり組織的に取り組んでいる。学部や大学院だけではなく、イノベーション研究センター・IIPP（Innovation Management Policy Program）など、多くの組織によるイノベーションに関する多層的な研究教育プログラムが数多く設置されている。東京大学（総合系）：工学部を中心に、経済学部やイノベーション政策研究センターでも展開されている。他には、神戸大学、東京工業大学、法政大学、東京理科大学、関西大学なども導入されている。本学の学部では、「イノベーション論」の授業もあるが、製品企画・マーケティング・デザインなど業務レベルにとどまっているようである。 本大学院特別講義では、この分野の知識・能力を持つために必要な課題が選定され、文献レビューとディスカッションを行うことを通じて、受講者が研究を遂行していくためにこの分野に求められる基礎力を形成することを目指していく。

到達目標
大学院レベルで体系的・包括的にこの学問分野を学ぶ。経営学、組織論、戦略論の俯瞰的な視野で、イノベーションをモノ（製品）とコト（サービス）の両面から捉え、この分野の奥深さと幅広さを紹介する。古典的な文献と代表的な文献のみならず、最新の文献をも取り入れ、イノベーション分野に関する知っておくべき知識や理論/パラダイムを習得する。 上記について受講生の立場から「●●できるようにする」という表現で記述する。少々どくくなるが確認してほしい。なお「●●できるようにする」という表現が不適当な場面では別の表現としている。 経営学、組織論、戦略論の俯瞰的な視野でイノベーションを理解することができるようになる。 イノベーション分野に関する知っておくべき知識や理論/パラダイムを習得している。 以上。

提出課題
1．期末試験と期末レポートは実施しない。 2．毎回の授業で提出するレポートがすべてである。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
毎回、導入、解題、解説と振り返りを行う。原則として授業中におこなう。

評価の基準
1．毎回出席し、輪番発表や討論参加は必須である。 2．毎回、事前課題を熟読したうえ授業参加する心構えが必要。 3．報告者は報告を、参加者は質問を、また全員は積極的に授業へ討論・貢献をすること。 <おおよその配点> *出席及びノート提出：30％ *輪番時の報告内容（出席点は含まない）：30％ *授業への貢献：40％ 上記はあくまでも目安である。その他の要素を考慮して総合的に判断することは言うまでもない。 毎回、受講者は事前課題を熟読し、読書ノートを作成したうえ授業に参加する心構えが必要である。 輪読ではなく通読の形で全員参加する必要がある 毎回教員は問題提起・解題・点評・説明を、報告者は報告を（2頁の報告資料を全員分用意して、15分以内発表する）、参加者は質問・討論（全員、1頁の資料を教員へ提出する）を、全員参加型授業で進める。 この授業は対面を原則とする授業ですが、社会状況あるいは受講生の状況により、オンライン（オンデマンド）で提供する場合があります。仮にオンライン（オンデマンド）授業を行った場合でも、対面型授業の評価方法と同一とします。ただ、課題等の提出方法は別途設定することとします。

履修にあたっての注意・助言他
1．大量の読書・ノートの時間は必要。最低目安：輪番報告者は週6時間、参加者は毎4時間。 2．古本を善用する。学んだ古典文献を現実社会に積極的に活用・分析してみる。 3．能動的な集団学習。相互の啓発、知的な刺激が大事である。 4．教員と履修者は毎回、配布必須資料のほか、適宜、関連する文献や情報・課題をも教室までに持ち込み、全員発言討論型・参加型画型の授業を行っていく。 5．参考：過去の履修者の成績はすべて優秀だった。 この授業は対面を原則とする授業ですが、社会状況あるいは受講生の状況により、オンライン（オンデマンド）で提供する場合があります。

教科書					
.使用しない.					

参考文献					
参考文献1					
参考文献2					
参考文献3					
参考文献4					
参考文献5					
参考文献6					
参考文献7					
参考文献8					
参考文献9					
参考文献10					
参考文献11					
参考文献12					
参考文献13					
参考文献14					
参考文献15					
参考文献16					
参考文献17					
参考文献18					
参考文献19					
参考文献20					
参考文献21					
参考文献22					
参考文献23					
参考文献24					
参考文献25					
参考文献26					
参考文献27					
参考文献28					
参考文献29					
参考文献30					
参考文献31					
参考文献32					
参考文献33					
参考文献34					
参考文献35					
参考文献36					
参考文献37					
参考文献38					
参考文献39					
参考文献40					
参考文献41					
参考文献42					
参考文献43					
参考文献44					
参考文献45					
参考文献46					
参考文献47					
参考文献48					
参考文献49					
参考文献50					
参考文献51					
参考文献52					
参考文献53					
参考文献54					
参考文献55					
参考文献56					
参考文献57					
参考文献58					
参考文献59					
参考文献60					
参考文献61					
参考文献62					
参考文献63					
参考文献64					
参考文献65					
参考文献66					
参考文献67					
参考文献68					
参考文献69					
参考文献70					
参考文献71					
参考文献72					
参考文献73					
参考文献74					
参考文献75					
参考文献76					
参考文献77					
参考文献78					
参考文献79					
参考文献80					
参考文献81					
参考文献82					
参考文献83					
参考文献84					
参考文献85					
参考文献86					
参考文献87					
参考文献88					
参考文献89					
参考文献90					
参考文献91					
参考文献92					
参考文献93					
参考文献94					
参考文献95					
参考文献96					
参考文献97					
参考文献98					
参考文献99					
参考文献100					
参考文献101					
参考文献102					
参考文献103					
参考文献104					
参考文献105					
参考文献106					
参考文献107					
参考文献108					
参考文献109					
参考文献110					
参考文献111					
参考文献112					
参考文献113					
参考文献114					
参考文献115					
参考文献116					
参考文献117					
参考文献118					
参考文献119					
参考文献120					
参考文献121					
参考文献122					
参考文献123					
参考文献124					
参考文献125					
参考文献126					
参考文献127					
参考文献128					
参考文献129					
参考文献130					
参考文献131					
参考文献132					
参考文献133					
参考文献134					
参考文献135					
参考文献136					
参考文献137					
参考文献138					
参考文献139					
参考文献140					
参考文献141					
参考文献142					
参考文献143					
参考文献144					
参考文献145					
参考文献146					
参考文献147					
参考文献148					
参考文献149					
参考文献150					
参考文献151					
参考文献152					
参考文献153					
参考文献154					
参考文献155					
参考文献156					
参考文献157					
参考文献158					
参考文献159					
参考文献160					
参考文献161					
参考文献162					
参考文献163					
参考文献164					
参考文献165					
参考文献166					
参考文献167					
参考文献168					
参考文献169					
参考文献170					
参考文献171					
参考文献172					
参考文献173					
参考文献174					
参考文献175					
参考文献176					
参考文献177					
参考文献178					
参考文献179					
参考文献180					
参考文献181					
参考文献182					
参考文献183					
参考文献184					
参考文献185					
参考文献186					
参考文献187					
参考文献188					
参考文献189					
参考文献190					
参考文献191					
参考文献192					
参考文献193					
参考文献194					
参考文献195					
参考文献196					
参考文献197					
参考文献198					
参考文献199					
参考文献200					
参考文献201					
参考文献202					
参考文献203					
参考文献204					
参考文献205					
参考文献206					
参考文献207					
参考文献208					
参考文献209					
参考文献210					
参考文献211					
参考文献212					
参考文献213					
参考文献214					
参考文献215					
参考文献216					
参考文献217					
参考文献218					
参考文献219					
参考文献220					
参考文献221					
参考文献222					
参考文献223					
参考文献224					
参考文献225					
参考文献226					
参考文献227					
参考文献228					
参考文献229					
参考文献230					
参考文献231					
参考文献232					
参考文献233					
参考文献234					
参考文献235					
参考文献236					
参考文献237					
参考文献238					
参考文献239					
参考文献240					
参考文献241					
参考文献242					
参考文献243					
参考文献244					
参考文献245					
参考文献246					
参考文献247					
参考文献248					
参考文献249					
参考文献250					
参考文献251					
参考文献252					
参考文献253					
参考文献254					
参考文献255					
参考文献256					
参考文献257					
参考文献258					
参考文献259					
参考文献260					
参考文献261					
参考文献262					
参考文献263					
参考文献264					
参考文献265					
参考文献266					
参考文献267					
参考文献268					
参考文献269					
参考文献270					
参考文献271					
参考文献272					
参考文献273					
参考文献274					
参考文献275					
参考文献276					
参考文献277					
参考文献278					
参考文献279					
参考文献280					
参考文献281					
参考文献282					
参考文献283					
参考文献284					
参考文献285					
参考文献286					
参考文献287					
参考文献288					
参考文献289					
参考文献290					
参考文献291					
参考文献292					
参考文献293					
参考文献294					
参考文献295					
参考文献296					
参考文献297					
参考文献298					
参考文献299					
参考文献300					
参考文献301					
参考文献302					
参考文献303					
参考文献304					
参考文献305					
参考文献306					
参考文献307					
参考文献308					
参考文献309					
参考文献310					
参考文献311					
参考文献312					
参考文献313					
参考文献314					
参考文献315					
参考文献316					
参考文献317					
参考文献318					
参考文献319					
参考文献320					
参考文献321					
参考文献322					
参考文献323					
参考文献324					
参考文献325					
参考文献326					
参考文献327					
参考文献328					
参考文献329					
参考文献330					
参考文献331					
参考文献332					
参考文献333					
参考文献334					
参考文献335					
参考文献336					
参考文献337					
参考文献338					
参考文献339					
参考文献340					
参考文献341					
参考文献342					
参考文献343					
参考文献344					
参考文献345					
参考文献346					
参考文献347					
参考文献348					
参考文献349					
参考文献350					
参考文献351					
参考文献352					
参考文献353					
参考文献354					
参考文献355					
参考文献356					
参考文献357					
参考文献358					
参考文献359					
参考文献360					
参考文献361					
参考文献362					
参考文献363					
参考文献364					
参考文献365					
参考文献366					
参考文献367					
参考文献368					
参考文献369					
参考文献370					
参考文献371					
参考文献372					
参考文献373					
参考文献374					
参考文献375					
参考文献376					
参考文献377					
参考文献378					

その他
プリントは毎回、来週資料を事前に配布する。 参考文献は、以下の授業計画を参照のこと。ただし、実施段階で分権の変更を行う場合がある。

授業計画
1 イントロダクション：授業の進め方、科目の位置づけ、概要（内閣府（1956）『経済白書』抜粋等導入資料） <復習>当日の振り返り：120分 <予習>次回分のレジュメの読み込み、まとめをおこなう。（方法は都度授業で指示します）120分 2 イノベーションの起源と概念（シュンペーター（1911）『経済発展の理論』邦訳版1977 岩波文庫） <復習>当日の振り返り：120分 <予習>次回分のレジュメの読み込み、まとめをおこなう。（方法は都度授業で指示します）120分 3 製品イノベーションとプロセス・イノベーション：生産性のジレンマ-AIモデル（アッターバック・アバナシー（1975、1978、1998）『イノベーション・ダイナミクス』） 4<復習>当日の振り返り：120分 <予習>次回分のレジュメの読み込み、まとめをおこなう。（方法は都度授業で指示します）120分 イノベーションの発生と普及（小川（2000）『イノベーションの発生理論』） <復習>当日の振り返り：120分 <予習>次回分のレジュメの読み込み、まとめをおこなう。（方法は都度授業で指示します）120分 5 イノベーションと知識創造：（野中・竹内『知識創造企業』） <復習>当日の振り返り：120分 <予習>次回分のレジュメの読み込み、まとめをおこなう。（方法は都度授業で指示します）120分 6 イノベーションのジレンマ：持続的 vs 破壊的イノベーションの論理（クリステンセン（1997、2003、2014）） <復習>当日の振り返り：120分 <予習>次回分のレジュメの読み込み、まとめをおこなう。（方法は都度授業で指示します）120分 7 イノベーションと組織・人：ドラッカー『イノベーションと企業家精神』、野中・竹内『ウイズ・カンパニー』 <予習>当日の振り返り：120分 <予習>次回分のレジュメの読み込み、まとめをおこなう。（方法は都度授業で指示します）120分 8 オープン・イノベーション（チェスブロウ（2004）『オープン・イノベーション』） <復習>当日の振り返り：120分 <予習>次回分のレジュメの読み込み、まとめをおこなう。（方法は都度授業で指示します）120分 9 サービス・イノベーション（近藤（2012）『サービス・イノベーションの理論と方法』、チェスブロウ（2012）『オープン・サービス・イノベーション』） <復習>当日の振り返り：120分 <予習>次回分のレジュメの読み込み、まとめをおこなう。（方法は都度授業で指示します）120分 10 ユーザー・イノベーション：加護野・延岡・栗木・吉原（2014）『顧客との価値共創 一橋ビジネスレビュー2014春季号』、 <復習>当日の振り返り：120分 <予習>次回分のレジュメの読み込み、まとめをおこなう。（方法は都度授業で指示します）120分 11 デザイン・イノベーション（ベルガンティ（2012）『デザイン・ドリブン・イノベーション』） <復習>当日の振り返り：120分 <予習>次回分のレジュメの読み込み、まとめをおこなう。（方法は都度授業で指示します）120分 12 リバー・イノベーション（ゴピンダラジャン・トリンブル（2012）『リバー・イノベーション』） <復習>当日の振り返り：120分 <予習>次回分のレジュメの読み込み、まとめをおこなう。（方法は都度授業で指示します）120分 13 ビジネス・モデルのイノベーション（チェスブロウ（2004）『オープン・イノベーション』、（2012）『オープン・サービス・イノベーション』） <復習>当日の振り返り：120分 <予習>次回分のレジュメの読み込み、まとめをおこなう。（方法は都度授業で指示します）120分 14 オンライン・イノベーション・システム（NIS）（一橋大学イノベーション研究センター『イノベーション・マネジメント入門』） <復習>当日の振り返り：120分 <予習>次回分のレジュメの読み込み、まとめをおこなう。（方法は都度授業で指示します）120分 15 まとめ講義 <復習>当日の振り返り：240分
状況により、テーマ及び文献を変更する場合がある。具体的な内容については、初回授業の際に改めて説明する。

授業形態（アクティブ・ラーニング）			
☐	ア：PBL（課題解決型学習）	☐	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
☐	ウ：ディスカッション、ディベート	☐	エ：グループワーク
☐	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（Aし型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
レポートや課題に対しては、webシステムの活用を原則とします。

実務経験の有無及び活用
「実務経験あり」。本学に着任したのは2002年4月。その前は経営コンサルタントとして13年活動。その経験を授業に活かしていきたい。

備考
全員、事前に資料と心構えを準備したうえ、授業に臨んでください。